

策定委員と中高生世代との意見交換会 グループB

■グループトーク

○事務局

最初は子育て世代への外出支援から意見交換をお願いします。

○木下委員

わかりました。正解とか不正解とかないですし、あと、我々策定委員も本当に頭を悩ませています。これは冗談抜きで。どうしたらいいか。どうやったらそれぞれのテーマについて、よりいい内容になるか、より皆さんが住みやすいまちになるかというのはいつも検討していて、まだまだ答えが出ていない感じなので、いろいろな意見を率直に、思いつきでも全然構わないのでいただければと思うんですけども、いかがですか。

子育て世代の移動。大変だという話が出ていました。僕も子どもがまだ小さくて、7歳と2歳です。両方とも小さいころ、どこかへ連れて行くと、スーツケースを持っていきました。荷物がいっぱいなんですよね。公共の交通機関、バス停まで行ったり、バス停からバス停とか、バス停から電車に乗ったりとか、移動が本当に大変だったので、ここの負担をもうちょっと何とかしたいねという話です。皆さん、想像つきますか。

○事務局

バスとか電車で会ったことあるかな。ベビーカーで出かけていたり、抱っこしていたりとか。

○木下委員

結構みんな席を譲ってくれるんです。小さい子といたりすると。

どうでしょう。スライドの市がやってきた取り組みと、何が課題なの？というところを見てもらいながら、あと、今日はどんなことを話したらいいということもですね。

○参加者

子ども自体がめっちゃ重いというのはわかります。保育園とか児童館でたまに子どもと遊んだりするんですけど、すごい危なっかしいし、しかも、その人自体が重いから、荷物のことはあまり考えたことがなかったけど、そうやって考えるとすごい重いだろうなと思います。

○木下委員

そうなんですよ。今言ってくれたように、荷物も子ども自体も重いから、出かけるの

を躊躇したりもするんですよね。それで出かける機会が減ったり。でも、それって子どもにとっても家族にとっても不利益になるんだよね。どんなことがあったらいいですかね。

皆さん、小さい子とかかわったことって結構ありますか？どんな機会にかかわった？

○参加者

親戚に2人小さい子がいて、よく遊びます。

○木下委員

一緒に遊んでいるときは楽しいけど、どこか連れて行ったりするのは結構大変だよね。

○参加者

大変です。

○木下委員

どんな不便が生じるだろう。あと、何歳ぐらいまでサポートがあるといいでしょう。皆さん、自分のことを覚えています？

○参加者

私の場合は、あまり歩きたくなくて、みんながベビーカーに乗らなくなった5歳ぐらいまでベビーカーに乗っていました。家庭によってもサポートが必要な年齢は異なるんじゃないかなと思います。自立できる子はわりと早い段階から自立しているけど、私みたいな場合は、わりと遅くまでサポートが必要でした。

○木下委員

なるほど。どっちに合わせればいいんですかね。自立が早くてサポートが早く必要じゃなくなるところと、結構遅くまでサポートが必要なところと。もちろん個人差がありますよね。うちも、さっき言った子ども2人いるんですけど、全然違うんですね。なんで同じ親から生まれてこんなにも違うんだらうというぐらい違うんですけど、上の子は自立が早くて、下の子はちょっと遅そうなんですよ。

○参加者

でも、ずっとベビーカーに乗っていると、どこかに行っちゃわないからいいと思う(笑)。

○木下委員

確かに。

○参加者

普段、通学とかでバスや電車を利用するんですけど、ベビーカーを利用している人がバ

スに乗ってくるとき、場所があまりなかったり、スライドにもあったとおり、乗務員のサポートが必要なんですけど、バスが混んでいると乗れないし、時間帯も限られているので、子育て世代が優先される交通手段が多ければ気楽に利用できるのかなと。

○木下委員

なるほどね。それは確かにそうですね。子育て世代が優先されるような。

あと、どんなことがあったらよさそうですか。確かに、バスや電車で、混んでいると、朝混んでいるから躊躇して、みんなに迷惑がかっちゃうかなみたいな感じで躊躇したりすることもあるだろうけれども、混んでいる時間帯に乗らなければいけないときもありますもんね。どうやったら子育て世代が優先されますかね。具体的にどんなやり方がありますか。

○参加者

具体的には難しいです。

○木下委員

具体的に難しいよね。

○参加者

でも、気を遣ってしまう、周りに迷惑がかかってしまうと思わせてしまうような雰囲気になってしまっていると思うから、もっと気を遣わなくていいんだよという考えが伝わる雰囲気にできるようにしたいなと思います。でも、ただ「大丈夫ですよ」みたいにいきなり声をかけても怖いし、それを示せる手段があったらいいなと思います。

○木下委員

なるほど。そういうのって少しずつ社会は変わってきていて、例えば、今言ってくれたように、示せる手段としては、障害があるという赤いヘルプマーク知っていますか。あれは前まではなかったですよ。だけど、身体に障害がある人というのは、見ればすぐわかる感じがあるけど、精神であったり、知的であったり、発達であったりとかに障害があって、一見してわからない方は、どうやって周りが配慮すればいいのかわからないというので、ああいうのができてきているというのがあって、僕もそれをつけている人がいると、席を譲ったりするんですよ。そういう何か伝わるものがあるといいかもしれないですね。妊婦さんはマタニティマークがありますよね。子どもを連れているかは、見たらわかるか。

○参加者

子ども連れの人が出たときに、気を遣わなくても大丈夫だとわかる何か。

○木下委員

なるほどね。逆か。私はそういう考えを持っていますよ。お子さんがいる方は困ったら私に声をかけてくださいみたいなマークということですか。

○参加者

どちらかというところですか。

○木下委員

それいいね。逆パターン。

○参加者

それがあれば、子どもがいない、子ども連れの人が来ていない状態でも、周りの人がそういうマークがあるんだということで、それが存在しているという社会になると思うから。

○木下委員

いいね。社会、変わるね。

何かここまででありますか。

○参加者

ちょっと話が難しくて。

○木下委員

このテーマ、難しいよね。みんな難しいのよ。ここに書いてある策定委員の先生たちもみんな難しいと言っていることなので、難しいのは当然なんだけど、難しいね。

○参加者

あまり小さい子とかかわることがないから。

○木下委員

自分に子どもができて、ってなかなか想像できないよね。

○事務局

自分のことに置きかえられなくても、さっきみたいに、まちで出会ったときにどういうふうになったらいいかなとか、そういう切り口でもいいと思うので、思ったことを意見交換できたらいいですね。

○参加者

乗り放題までいなくても、割引とかならちょっとはいいかなとか。

○参加者

電車とかというより、女性専用車両とか、そういう専用車両があるじゃないですか。バ

スとかそれにとって代わるような交通手段とかで、子連れ限定とまでいかななくても、中心的というか、優先的に利用できるようなものがあればいいなと思うんですけども、バスとかだと、交通量が多いものじゃないとそういうのは実現できないのかなと思ったり。

○木下委員

そうだね。確かに。でも、アイデアとしては、女性専用車両があるように、子連れ専用バスみたいな。でも、今言ってくれたように、採算がとれないとなかなか難しいんじゃないかとかね。でも、もしかしたらアイデアがあるだけで、どうやってそこを採算をとっていくかというのは後から考えられるかもしれないから、とてもおもしろいよね。

あと、タクシーもね。皆さん、普段あまりタクシーに乗らないですかね。

○参加者

乗らないです。

○木下委員

ちょっと想像がつきにくいかもしれないですけど。

○参加者

公共の交通機関が使いにくいようなら、例えば、市にいる、仕事はしていないけれども車はあって運転はできるという人とか、まだ働けるけど職がないという人とかに頼んで、1人ずつ個別で市に登録してもらって、そこで割引を受けて車で個別に運んでもらえばいいんじゃないか。

○木下委員

それ、次に話し合う高齢者の方のところと結びつくかもしれないね。それもおもしろいね。いろいろ僕らが思いつかないことがいっぱい出てくるね。

ということで、もっとこれから深めていきたいところなんだけど、これについて最後まとめます。まず、お子さんを連れている人は見ればわかるから、そういったことに理解があるよということをマークとして市民がつけるということで、公共の交通機関とかでこっちから困っているときに声をかけやすくなっているとか。あとは、子連れ専用バスとかもあったらおもしろいですよね。あとは、仕事はしていないけれども車はある、暇もある人が登録しておいて、困ったときにその人に車を出してもらおうということも出ました。いいんじゃないでしょうか。これを発表するのが、そしてこれを聞いたみんなの反応が楽しみです。では、次、吉祥寺のまちづくりについていきましょうか。

○鈴木委員

吉祥寺のまちづくりのテーマは大人のテーマだから、難しいと思うんだけど、僕が今日みんなに聞きたいのは、サードプレイス。サードプレイスという言葉聞いたことがある？

ファーストプレイスは家、セカンドプレイスは、みんなの場合は学校。大人の場合は会社だったり。サードプレイスというのは、家と学校でない自分の居場所。そういう場所があることが人生が豊かになるという説があるわけ。今みんなにとってのサードプレイスというのは何かというのと、吉祥寺にみんなのサードプレイスができたらいいなと思うとしたら、どんなところだろう。

武蔵野市の施策で言うと、武蔵境に武蔵野プレイスというのがあるでしょう。行ったことある？

○参加者

はい。時々行きます。

○鈴木委員

地下2階の青少年フロアは別のグループでも評判よかった。あと、音楽ができる防音のドラムセットが置いてある。

○参加者

行っています。

○鈴木委員

ああいうのは、普通、すごい高いお金を払わないと買えないじゃないですか。使えないけど、そういうのが吉祥寺にあったらいいなと思う人、手を挙げて。

○木下委員

普段使っている2人が手を挙げている。だから、いいんだよね、やっぱり。

○鈴木委員

もし行ったことがなかったら、武蔵境のプレイスに1回行って見て。そこはコミセンと違って、おじいさん・おばあさんが来ない。今度、吉祥寺にコミセンを建て替えるんだけど、コミセンを建て替えるときに、前のコミセンがただでかくなったら嫌だなと思う人いる？コミセンを建て替えるとなったときに、プレイスみたいに中高生がいられるような場所、図書館みたいにしゃべっちゃいけないとか、宿題やっちゃいけないとかと言われたい、大人に干渉されない。別のスペースにはおじいさん・おばあさんが将棋をやったり、何かやる場所があつて。それこそ、僕、サードプレイスがあつてもいいと思うんだよね。交流

みたいなの。そういうような新しいコミセンみたいなのが今度吉祥寺にできようとしているので、期待してください。今日言い足りなければ、何かこういうのをつくれとか、そういうのを言ってもらったほうがいいと思うんだよ。わりと武蔵野市のこういう会議、中高生の意見をすごい大事にしている。

あと、もう一つ聞きたかったのは、吉祥寺に降りて、井の頭公園のほうへ行こうとすると、いきなりバスがあって、「渡らないでください」って言われているでしょう。ぐちゃぐちゃだし、なかなか信号が変わらないから、井ノ頭通りを何とかして渡る。あの辺のまちづくりをこれから変えようとしているのかな。今みたいなぐちゃぐちゃして、バスを横断するんだけど、わりと人が、小さいお店がガーッと並んでいる感じと、こんなでかいビルがドーンと建って、渋谷とか虎ノ門とかああいう感じの。どっちもできるよと言われたら、どっちがいいですか。

○参加者

どっちもあってもいいかなと思います。

○鈴木委員

吉祥寺を降りて、バスが通っていて三角形になっている、パークロードと言う場所があるんだけど、僕はあそこにはバスがないほうがいいなと思う。駅から公園のほうに行く道があるでしょう。あそこはある程度再開発して、中高生の居場所的な空間というのがずっとつながっていくといいなと思って、そういう画を今頭に描いているわけ。だから、みんなもそういう勝手なまちの画を描いてくれるといいなと思う。

公会堂を今改修しようとしているんだけど、公会堂へ行ったことある人いる？

○参加者

私は吉祥寺のイベントの実行委員のミーティングみたいなので行きました。

○鈴木委員

次の再開発アイデア要員だね。公会堂って、例えば、落語とか、音楽とか、そういうのがあったときに、そこにみんなお客として行く以外、あその土地にブラッと入る人なんていないでしょう？これからの公会堂は、わりとフッと入って、そこで自販機で買って飲んで、休んだりとか、そういうことがしやすい設計になっていて、中の建物は、今までのようなホールとかもあるんだけど、建物の外で、屋外なんだけど、外の道路とちゃんとつながっていて、ちょっと上がったところとか、視線がいろいろ変化がついて、小さいたまりがいっぱいあって、そこはタダで入れるから、今までのちょっと入りづらいような感じ

がなくなると思う。こういうのがつながったらどうなるかなと想像してほしい。

都市計画はすぐにはできないので、私が武蔵野市へ初めて来たときの、水道がない、ガスがない、下水もない、電気だけがあった、そういうときから 70 年で、やっと今ここまで来た。だから、吉祥寺の今のぐちゃぐちゃしたまちで、何となく夜歩きにくいとか、いろんな課題があるんだけど、そういうことに対して意見を言って返るのは、皆さんの世代なんだよね。だから、今日をきっかけに、積極的にいろんな意見を言うと、武蔵野市はこういう職員の方がちゃんと聞いてくれるんですよね。

○木下委員

何か皆さん、こうなってほしいなというのはありますか？駅周りとか皆さん結構使いますよね。駅周りというところで、何か今言ったお話をもとに、自分たち中心で考えていいと思うんです。自分たちファーストで中高生の居場所とかいうのも、今、課題になっているんですね。

できるか、できないかというところは、後から考えればいいから、こんなのあればいいんじゃないかというのは何かありますか？

○参加者

私は、武蔵野市民じゃなくて、ほかの区から武蔵野市の学校に来ていて、小学校からそうなので、近隣の友達とかもいなくて、コミュニティセンターとかに行ったことがなくて、でも、行ってみたいと思ったことはあるんですけど、何となく、家も近くないし、行きづらくて。具体的な案は出せないんですけど、私みたいな人たちも行けるような場所があればいいなと思っています。

○木下委員

在住じゃなくて、在勤とか在学の人たちが、外から来る人たちが気軽に使えるように。

○参加者

いつも友達と集まるときは、サンロードとかで、お店しかないので、どうしてもお金を払わなきゃいけないくて、無料で行ける場所があったらいいなと思っています。

○木下委員

武蔵野プレイスなんか使えますよね。どんどん使って。でも、境だ。

○参加者

武蔵境に行くときは吉祥寺を経由しているんですけど、吉祥寺まで1時間かかるので。

○木下委員

結構かかるね。じゃ、吉祥寺の駅周りに在学の人たちが気軽に使えるような何か。具体的にどんなもの？

○参加者

具体的にですか。SNSをみんな使うことが多いので、音出しもできるような環境だったら行きやすいかなと思います。

○参加者

あと、勉強できる場所が欲しいです。

○木下委員

勉強できる場所はあまりない？

○参加者

今、高校3年生で、みんな勉強し出すんですけど、あまりない。みんなわりと住んでいる市にそういうことができるところがあるとか、図書館があると言っていて、もちろん武蔵野市にもあるんですけど、もっと自由に個別で使える場所があってもいいなと思います。無料で。

○木下委員

そういうのはあまりないんだ。

○参加者

プレイス以外にないです。

○木下委員

プレイスはすごい評価が高いけど、それしかないじゃんという感じなのかな。

○参加者

コミセンの自習室を使っている人もいますけど、多分そんなに知られていない。

○木下委員

それを拡散するといいね。使えるよって。

○参加者

あと、同じ中学だったけど、違う高校の人と会おうと気まずい、みたいな。だから、個別の部屋があつたらいいかなとか思います。

○参加者

駅周辺がそういうのが多いから、もうちょっといろんなところに勉強できる場所があつたら便利だと思います。

○木下委員

もっと市全体に点在しているような。やっぱりみんな勉強スペースが欲しいんだね。

○参加者

若者だけじゃなくて、いろいろな世代の人が集まったらいいなと思っていて。さっきおっしゃっていたように、若者とコミセンにいる高齢者の方が分断されているんじゃないくて、こういう人もいるんだというふうにわかった上で、自分が何をするかみたいに、視界に入った状態が大事だなと思っています。

○木下委員

なるほど。いいことを言いますね。僕の専門から言うと、障害がある人がずっと、武蔵野市だけじゃなくて、日本中、世界中で公共の場とかから排除されてきた歴史があるから、僕からすると、分断されていないで、もっと多様な人が集うような、外国籍の人も、そういう人たちが視界に入る、みんなが使えるようなところがあるといいですね。コミセンは分断されている感じですか。

○参加者

もうまず行かない。

○木下委員

おじいちゃん・おばあちゃんしかいないから行かないという感じ？

○参加者

子どものときは行っていました。流しそうめんのイベントがあつて、そこでわりと遊んでいたりしていたけど、あと、卓球したりしていたけど、それも小学生までという感じで。

○木下委員

逆に、なんで行かなくなるの？

○参加者

することがない。漫画とかを置けば、子どもはその漫画が好きなら、きっと来たくなる。

○木下委員

なるほど。空間はあるけど、居場所とならないということか。サードプレイスというのは、まずタダであることと、緊張しないことと、自分だけじゃないんだよね。孤独でもないんだよね。そういう場所というのを、居心地のいい場所というのはなかなか難しい。だけど、それが自然にできるようになるというまちづくりが望ましいと思うね。場所だけ提供してもダメ。

○参加者

そこに、例えば管理する大学生を置くとか、常にこの人がいるから安心できるみたいな。プレイスも多分そうだと思うんです。職員の人フレンドリーで。

○鈴木委員

相談できる人がいるんだよね。あそこは若いスタッフが多いもんね。

○参加者

だから、若者を尊重してくれる若者とか、ちょっと上の世代が常にそこにいてくれたら、あの人がいるから安心だから行こうとなるかなと思います。

○鈴木委員

あと、楽器とか言っていたけど、例えば、絵を描いたり、体を動かしたり、そういうのがきっかけのサードプレイスもあってほしいんだよね。勉強だけじゃなくて、結局、家の家族生活と勉強以外にもうちょっと人生を豊かにするアイテムがあるじゃない。それを知るきっかけになるような場所があるといいなと思うね。

○参加者

コミセンとかに大きいホワイトボードを置いておいて、今ハマっているものみたいなのを来た人がそれぞれ書いたり、モノを置いていったりしたら、来たときにおもしろいし、例えば友達と一緒に来ても何もないねと言って帰っちゃうより、こういう人もいるんだ、みたいなふうにしていったらおもしろいかなと思います。自分のことを書いたりもできるので。

○鈴木委員

プレイスはボードがあるね。

○参加者

意見を書ける。

○木下委員

なるほどね。おもしろい。

○参加者

あとは、ジグソーパズルがおすすめです。やるのは楽しいんですけど、あまりしゃべらなくて済むんです。集中するから。それだったら、そんなに知らない世代の人でも、一緒にやれば協力している感が出るし、でも、しゃべらなくてもいいけど、同じものを達成できる。

○木下委員

なるほどね。

○参加者

個人的な意見になっちゃうんですけど、私の家の目の前に区民館があって、部活で楽器をやっているんで、楽器を練習したくて一度音楽室を借りたことがあったんですけど、1人で借りなきゃいけないって、なおかつ、音楽室がただっ広くて使いづらかったんで、1人じゃなくても気軽に使える音楽室みたいな場所があったら、居やすい場所になるのかな。楽器とかも何かあれば、手が出しづらかったものも簡単に体験できるんじゃないかなと思っています。

○木下委員

コミセンに1個だけそういうのがありますけど、借りるのはハードルが高いですね。

○鈴木委員

あるところはあるけど、ブラッと行ってという感じじゃないね。

吉祥寺のイーストというのはわりとジャズクラブとかいろいろあるんだよね。風俗だけじゃなくて。だから、そういう芸能系の人材を発掘するような空間とか、育てる、若い人が安く借りられるスタジオ的なところがあるといいよね。

○参加者

高校とか中学とか、吹奏楽部とかもあるから、そういう人たちをコミセンに呼べば、学校の人たちも来てくれるし、そこにいる人たちも来てくれる。協力したらいいかなと思います。その存在を知ってもらったらいいいかな。

○参加者

ボランティア演奏とかを頼んだりしたら、学校の人たちにそういう場所があると認識とかもしてもらえる。

○事務局

普段、学校とお家以外で行くところとかあるかな。

○参加者

大体家でドラマとか見ちゃう。

○参加者

自分も楽器をやっていて、フラッと立ち寄れる感じのところがあれば、練習とかもしやすくなるといいな。予約してまで行くのはハードルが高かったりするので、でも、そこじ

やないとできないし。

○参加者

個室とかがあれば居やすいかなと思うんですけど、楽器によっては音量とかも違って、自分の楽器の音が聞こえなくなったりするので、みんなで使う共有スペースと、個室があったら使いやすいのかな。

○参加者

私も防音室が欲しいです。軽音部に私は入っているんですけど、音楽室はコーラス部が使って全然できなくて。スタジオに行ってお金を払わないといけないんですね。だから、吉祥寺のスタジオに行ったりする人も多いんですけど、例えば、割引があるドラムセットとかアンプとかがある場所が1個でもあれば、みんなそこに行くと思います。

○木下委員

僕は楽器をやっていないからわからないんだけど、防音室が1個あって、個室に区切られていなくても、あっちこっちでみんな好きなように個人練習というのはできない？

○参加者

楽器によっては厳しいです。私の学校、音楽部と言っても3つあって、コーラス部と、吹奏楽部と、ストリングス部という弦楽器の楽団ですけど、音楽室の建物が2階建てで、1階と2階に分かれて吹奏楽部とストリングス部が練習したとしても、吹奏楽は音が大きくて、私はストリングス部なんですけど、こっちの練習に支障が出るぐらい、教室は使えない。

○木下委員

どうしても個室も必要になってくるんだね。わかりました。でも、その要望が、ひとまずこのグループでは高いということがわかったので。

○鈴木委員

サードプレイスはタダじゃないとダメなんだよね。

○参加者

そういうタダの場所があったら行ってみたい。

○木下委員

家でドラマを観ている子も、ちょっとおもしろそうだなみたいな感じで、寄るようになるのかな。

○参加者

音楽をしないから寄らないかも。

○参加者

別に音楽じゃなくてもいいんだよ。いろんなところがあるから。ボードゲームが置いてあったりとか。それこそ動画を観れるところもあったらいいのかな。

○参加者

パーティできる場所があったらいいと思います。誕生日とかのときに学校の帰りにみんなでちょっと集まって、お菓子がいっぱいあって、例えば、シアターみたいにプロジェクターで動画を流したりしたら、学校とは違って特別な感じだし、みんなで行きやすいかな。

○木下委員

なるほど。おもしろいね。

○参加者

みんな打ち上げとか、多分したいから。

○木下委員

吉祥寺のまちについてはここまでにして、あと2つテーマがあるんですね。皆さん世代に近いということで学校改築にいきましょうか。

学校改築、これ、本当に難しいテーマで、皆さんもご存じのように、今、少子高齢化で子どもの数がどんどん減っています。もう一つの現状として、建物の耐築年数があるんです。だから、今までずっとあった公立の小中学校が建て替えなきゃいけなくなる。でも、そのまま建て替えたなら、子どもが少なくなってきた中で、1個1個の学校に行く人数がものすごい減ってくるんです。そうなったときに、本当に今までの数が必要なのかどうかというところがまず議論の発端になっています。難しいです。どうあるべきかということですよ。

○事務局

学年、何クラスぐらいあるかな。私立はいっぱいあるよね。

○参加者

中学が7クラスで、小学校は4クラス。

小学校が、低学年が1クラス28人で、高学年になると人数がふえて30人。中学は、1クラス40人ぐらい。人数が倍になります。

○木下委員

中学からまた入ってくるんだ。すごいね。逆に公立はどうなの？

○参加者

4クラス。小学校の低学年は5クラス。

○木下委員

公立、これからどんどん減ってきたときに、いろんな支障が出てくるみたいなんですよ。さっき言っていた、建物を十分使い切れないというのもあるし、1学年が2クラスぐらいになってくると、今度、部活に影響が出てきたりとか、あとは、1つの学校に、生徒数がすごい減ることによって、簡単に言えば、友達のできる範囲というのが狭まってくるということですよね。というようなことがある中で、これから公立学校はどうあるべきなんだろう。

○参加者

人数が少なくなることで先生の負担が減るかな。今まで大変そうにしていたので、ちょっとよくなるのかなとか。

○木下委員

なるほど。そういうメリットもあるよね。

○参加者

子どもに目が行き届くようになる。

○木下委員

教師の負担が減ると。このままでいいんじゃないかということだね。

○参加者

私が感じたことなんですけど、小学校のころはクラスの人数が少なくて、先生とかかわる機会も多かったのに対して、今はクラスの人数が10何人も当時より増えて、先生とのかかわりもかなり減ったなと思っているんです。先生の人数が足りていないという話も聞いたりでするので、どっちを取るべきなのかな。

○木下委員

難しいよね。

あと、今の話の続きでもいいし、普段、学校で、これまで小学校、中学校まで行く中で、何かもっと学校ってこうなればいいなみたいなことはあったりします？

○事務局

校舎のことでもいいし、授業のことでもいいよ。

○参加者

私が中学生のころは、まだ1人1台のパソコンが全然機能していなくて、持っているけど何も使っていない、休み時間にみんながテレビゲームをしているみたいな時代だったので、今はどうなっているのかわからないですけど、それはみんな戸惑っていたんだろうなと思いますね。

○木下委員

機能していなかったから戸惑っていた。今はどうなっているんだろう。

○参加者

あとは、先生に意見を言える。先生と子どもがわりと壁があって、もっとこうしたらいい授業になるんじゃないか、みたいな話をできる環境になったらいいなと思います。勝手に悪口を言ってるだけになっちゃうから。

○木下委員

先生との意見交換、授業のあり方とかをもっとできたらいいな。それ、重要だよ。僕ら、今、大学ではアンケートをとるのがほとんど義務になっているので、いっぱい来ます。こうしてほしい、ああしてほしい。

○参加者

論点がずれちゃうかもしれないですけど、私の通っていた中学は、職員室がげた箱の目の前にあるのに対して、高校は、2階に上がって、さらに奥に職員室があって行きづらいんですよ。だから、先生に何か質問したいときは、高校だと行きづらいなと思っていて。中学の環境が先生とかかわりやすかったなと思います。

○木下委員

動線という意味でね。新しい校舎ができるんだとしたら、先生と距離ができないような、先生と常に近い動線という校舎のつくり方、あり方がいいかなという感じだね。

高齢者のテーマまでは進めなかったけれども、一言でもいいんですけど、何かあります？皆さんのおじいちゃん・おばあちゃんはどう仕事を引退しています？

○参加者

親戚が多い会社なので、よくわからないですけど、ずっと働いています。

○木下委員

定年が今は65歳ぐらいが一般の会社だと平均的で、でも、人生100年時代だから、そこからあと35年どうするの？というね。せっかくいろいろ蓄積してきた皆さんの知恵がある中で、それが生かされない社会ももったいないし、その方自身たちも社会から隔絶さ

れてしまうというのは、生きがいとかが少なくなっていくちやうかなという中で、高齢の方が社会参加できるような……と言っている間に終わっちゃったね。

ありがとうございました。たくさんいい意見が出ておもしろかったです。

■グループ発表

○木下委員

Bグループも非常に多様な意見が出て、社交辞令的な言い方ではなくて、本当に私も勉強になりました。

まず、子どもがいる世帯の移動についてですが、いろいろ意見が出たんですが、3つ共有させていただきたいと思います。

1つが、障害がある方々がつけているヘルプマークがありますね。周りの方が気がついて何かしら配慮をするということがかなり社会の中で今進んできている中で、ただ、お子さんがいらっしゃる方は見ればわかる。その中で、何かしら公共交通機関を使おうとしたときに、そういう方がいたら私は配慮しますよということを表明できるマークをつけたらどうかというご意見がありました。これはなるほどなと思ったところです。

あとは、女性専用車両があるように、子連れ専用バス。コストの面を考えると難しいかなと言いつつも、そこら辺は考えないでいいので、とりあえず何かこういうのがあればいいんじゃないかということで出していただいたら、子連れ専用バスはどうかという意見がありました。

あと、これは高齢者のところとつながるんですけども、免許と車は持っている、時間があるという方が登録をしておいて、何かしらお子さんを連れて移動しなければいけない方が登録している方に連絡して、移動をお手伝いしてもらうということもあり得るのではないかという提案がありました。

それから、吉祥寺のまちづくりのところですね。これは、うちのグループでは音楽をやっている方が多かったんですね。一番多く出ていた意見が、無料で使える音楽のスペースがあったらいいんじゃないか、かなり皆さんが重宝するんじゃないかという意見です。

あとは、サードプレイスのところが駅周辺にあるので、もっと市内全体に点在するような形で置いてもらえるとありがたいということですね。それは在住の学生さんからです。

外から通っている学生さんからすると、武蔵野市在住ではないので、サードプレイスのなところは使いにくいので、外から吉祥寺に通ってきている方たちが使いやすいような何

かしらの工夫があるとありがたいなというお話でした。

あとは、コミセンとか武蔵野プレイスとか、世代間が分断されているようなところをもうちよつとそれが混在するような何かしら工夫がなされるといいのではないかということでした。それこそ高齢者と若者であったり、世代間を超えたりとか、外国籍の方とか、障害がある方とか、いろいろな方たちが混在して、お互いに交流がなかったとしても、視野に入る、同じ空間にいるということが大事なのではないかというご意見がありました。

最後に学校のところですけども、結構皆さんポジティブな意見が出ていて、少子高齢化で子どもが減っていくという中で、むしろ教師の負担が減って、1人1人の、1つの学校にいる在校生が減ることで、教師の負担が減ったり、教師との距離が近づくから、それはそれでいいのではないかというようなポジティブな意見が出ていました。

あと、校舎の建て替えをする時は、ぜひ動線に注意を払っていただきたい。要するに、生徒さんたちが校舎を使う中で、日常の学校生活を送る中で、教師とできるだけ顔を合わせるような動線にしてもらいたい。それが遠のいてしまうと、教師との距離も遠のいていってしまうので、そこは考えていただけるとありがたいですねということでした。

Bグループは以上です。(拍手)